

人材を育てる

泉 有亮

光陰矢の如しと申しますが、私は今年で84歳となり、現在、名古屋市にある公益財団法人大幸財団という若い人材を支援する組織で週2回の非常勤をしております。財団の事業内容を簡単にご紹介してシニア懇談会ニュースの随想に代えさせていただきます。

平成10年に名古屋大学を定年退官して20年続けた触媒研究を終えましたが、その後、縁あって市内の女子大で9年間教鞭をとり、最後の4年間は学長を務めて退職しましたが、永澤満先生のお薦めで大幸財団のお手伝いをするようになりました。

当財団は公的資金を原資として昭和55年(1980)に設立され、債券類を購入してその運用益から年間約1億円を活用し、各種の公益事業を実施しています。主な事業は、愛知県内の大学及び各種研究機関の研究者に対する研究助成と留学生を含む短大生、大学生及び大学院生への奨学金助成(貸与ではなく給付)です。自然科学系学術研究助成は1件500万円以内、人文・社会科学系学術研究助成は1件50万円から150万円以内、奨学金の給付額は年に一人36万円以内です。そのほか学会等開催助成など6事業があり、毎年11月には大幸セミナーを開催して、各分

野で顕著な活躍をされた方々の講演を聞く機会を設けております。

日本の大学(短大を含む)進学率は78%で世界6位ですが、大学院進学率は12%で世界36位まで下がります。目立つのは、平均年間収入が348万円の母子世帯の大学進学率が20%台と低いことで、財団としては母子家庭の優秀な学生を優先して助成するよう配慮しています。若年層の人口が減少している現在、将来の日本の経済・教育・文化の発展を担う若い優秀な人材を育成するための諸支援策を整備することが、今、強く求められているのではないのでしょうか。私も、体が動くうちは、財団にとどまって、人材育成の一助になれるよう努めたいと思っています。

触媒学会シニア懇談会の皆様のご健勝を心より祈願申し上げて、つたない随想とさせていただきます。